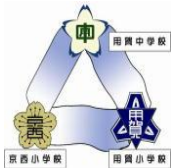


ようがの学び舎～ 責任 信頼 誇り ～



用賀中だより

学校だより 4月号
令和7年4月吉日
ようがの学び舎
世田谷区立用賀中学校

令和七年度のスタートに寄せて

～「生徒が主人公」そして「地域とともに歩む学校」をめざして～

ようがの学び舎 世田谷区立用賀中学校 校長 毛利 慎治

春のやさしい光に包まれて、校庭の桜が今年もきれいに咲いています。まるで、新しい出発を迎える生徒たちを応援してくれているようです。保護者の皆様、地域の皆様には、いつも本校の教育活動に温かいご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。そして、ご入学・ご進級された生徒の皆さんとご家族の皆様、本当におめでとうございます。新しい環境にわくわくした気持ちと、少しの不安を胸に抱えながらも、一歩を踏み出した皆さんを、私たちは全力で応援していきます。



今年度の用賀中学校は、1年生160名を迎え、全校生徒435名、全12学級でスタートしました。「ようがの学び舎」として、用賀小、京西小、用賀中の3校が連携し、地域と一緒に子どもたちを育てていく取り組みを続けていきます。本校はこれまで17年間、「地域運営学校」として地域の方々と共に歩んできました。その積み重ねを大切にしながら、さらに一歩進んだ“地域とつながる学校づくり”を目指していきます。

用賀中学校が大切にしているのは、「生徒が主人公の学校」そして「地域とともに歩む学校」という2つの姿です。学校はもちろん、家庭や地域のみなさんとも手を取り合って、子どもたちが安心して学び、自分の未来に希望を持てるような環境を一緒につくっていききたいと考えています。「チームようが」として、みんなで力を合わせて、生徒の成長を支えていきましょう。

今年度、特に力を入れていきたいのが、「非認知能力」の育成です。これは、テストでは測れないけれど、生きていく上でとても大切な力のこと。たとえば、自分でやってみようと思う気持ちや、失敗してもあきらめない粘り強さ、自分をコントロールする力、まわりの人を思いやる心などです。こうした力を育てることで、生徒が「自分は大丈夫」「自分にもできる」と思えるようになり、前向きな気持ちで未来を描けるようになることを目指しています。

そして、今年度も引き続き、「人の心の痛みがわかる人間になろう」という言葉を大切にしていきます。友だちや先生、まわりの人としっかりと向き合い、お互いを思いやる気持ちを育てていきたいと思えます。そうした関係づくりが、安心して自分らしくいられる教室や学校につながっていくのだと考えています。また、生徒一人ひとりが「自分はどんなふうに生きたいのか」「どんなことを大切にしたいのか」という未来のイメージを描けるように、キャリア教育にも力を入れていきます。

本校の教育目標である「自立・敬愛・精励」の3つの言葉のもと、勉強だけでなく、人との関わりや体を動かすことなど、さまざまな学びを通して、心と体のバランスがとれた成長をサポートしていきます。学校が楽しいと思えること、仲間と過ごす時間の中で自分のよさに気づけること、そうした小さな“うれしい”や“できた”を大切にしていきたいと考えています。

今年度も保護者の皆様、地域の皆様と力を合わせながら、子どもたちの笑顔と成長を見守っていただけたらと思います。どうぞ、引き続きご支援とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

令和七年度も、どうぞよろしくお願いいたします。